

- | | | |
|---|-----------|------------------------------------|
| 1 | 審議会名 | 平成25年度第2回西部公民館運営審議会 |
| 2 | 日時 | 平成25年11月12日(火)午後7時00分から午後8時50分まで |
| 3 | 会場 | 上田市西部公民館1階大ホール |
| 4 | 出席者 | 田村保会長、清水文彦副会長、工藤典子委員、小岩井礼子委員、南澤威委員 |
| 5 | 市側出席者 | 山崎館長、中山次長、小山主査、清水社会教育指導員、柳澤社会教育指導員 |
| 6 | 公開・非公開等の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴者 | 0人 記者 0人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成25年11月20日 |

協議事項等

- | | |
|---|--|
| 1 | 開会(中山次長) |
| 2 | 田村会長あいさつ
今年度第2回目の審議会なので、忌たんのない意見をお願いしたい。 |
| 3 | 審議事項
(1)平成25年度実施事業について(今までの実績と今後の進め方について)
(ア)体育事業関係
(委員)運動会は2年連続雨天中止となったが、大変残念であった。
(事務局)今後、雨天の場合、体育館でやる方法などいかがか。
(委員)あれだけの規模のものは体育館では厳しいのではないか。市民体育館でもできないと思う。その場合、競技種目を見直す必要があるのではないかと思う。いずれにしても、体育館で実施することは困難ではないか。
(イ)成人女性教育事業
(委員)童謡唱歌を楽しむ教室の人気の理由は何か。
(事務局)現在、128名の受講生がおり、関係者を通じた紹介や講師の人気などで今後も増え続けるものと推測している。また、西部公民館だけでなく、全国的に童謡唱歌を楽しむ人々が増えている。なお、西部公民館の童謡唱歌を楽しむ教室は20年以上続く歴史があることもその背景にあるのではないか。
(委員)近所で参加している人からも楽しい、大好きだと聞いている。
(委員)理由のひとつは、自分が輝いていた時代に戻りたい、それを再現できるのがこの会なのではないか。そういう点でタイムスリップできる喜びがあるのではないか。今、全国的に日本を見直そうという雰囲気があるのも理由として考えられる。西部公民館独自の人気講座なので、更に厚みを出すために、交流という意味でも、グローリア合唱団を入れてクリスマス特別コンサートなど企画するのも良いのではないか。
(委員)参加者の中に男性はいるのか。
(事務局)男性はいない。全て女性である。
(ウ)人権同和教育
(委員)人権同和教育自治会懇談会において、それぞれの地域で同和問題を扱うことが難しいと聞いているが、現状はどうなのか。
(事務局)同和問題を入れることについては、地域の分館の意識と公民館の考えがうまくみ合っていないと感じる。前期開催の段階で説明を受けている人権同和教育推進員の理解はあると思うが、その他の役員にはなかなか理解が及ばないことが考えられる。また、同和問題について躊躇していることの背景には色々な地域事情もあると聞いている。分館に |

よっては、開催内容と人権問題のつながりさえ良く分からないところもある。そういった前期懇談会の反省を受けて、人権懇談会として銘打ってやるからには、角度付けを講師の方をお願いするように推進員には依頼しているが、趣旨に沿ってやるのはなかなか難しい。懇談会2回開催のうち1回は同和問題を入れるという目標にはそぐわない、ハードルが高すぎる感がある。今後、こういう形で向かっていくのか、目標を見直すべきなのか、御意見をお聞きしたい。

(委員)年2回開催しているが、それぞれの内容はどうなっているのか。2回とも同和問題を入れるのか、入れないのか。

(事務局)入れるところと入れないところがある。

(委員)それでは、目標の立て方が違うのではないか。

(事務局)同和問題を必ず入れなければいけないのが問題だと思う。平成24年度のアンケートで最も取り上げて欲しい内容が、障がい者、子どもの人権、同和問題の順であるので、意識の上で、同和問題だけクローズアップするのは無理があるのではないか。とはいつてもやっていかなければいけない問題である。解放同盟の方を交えて推進委員会を行うという方法もある。

(委員)地域的なこともあり、そこまで踏み込めないのが実情ではないか。丸子セミナーでの講師を呼ぶ方法もある。性同一性障がい者の講演も予定されている。丸子でのセミナーはいつも満杯で、そういう所に分館関係者が出席するのも意識改革につながるのではないか。

(事務局)各分館で同和問題を扱うことが難しいということであれば、公民館主催の研修の機会に、同和問題について取り上げて良いのではないか。

12月6日の西部・塩尻地区人権を考える市民のつどいでは、同和問題を取り上げる予定である。各地区の推進員で同和問題だけを取り上げるのは抵抗があるのではないか。

(委員)担当の社会教育指導員の中ではどうなっているのか。

(事務局)そういう話はまだしていない。

(委員)上田市がなぜ同和問題をやらなければならないのか。長野市は「同和」を入れない。上田市は、前回の5ヵ年計画でも検討したが、「同和」を入れている。その背景を考えなければならない。2回の懇談会のうち、1回を青少年と絡めてやっている方が多いのではないか。であれば、2回やる必要があるのかと。同和問題を担当の指導員たちがどう捉えていくのが問題になる。現在、同和問題は姿を変えて差別が起こっている。いじめ、高齢者、障がい者への差別は、相手の弱みに向かって力でおとしめる姿は部落差別と同じだと考えている。だから、こういう差別の勉強をしながら、そのやっている背景は部落差別が起こればすぐにそっちへ移行してしまうということを考えながら学習すれば、より現実的になるのではないかと思う。あえて同和問題を出していくことはどうなのかと。

(委員)2回あるうちの1回でもいいと思う。同和教育は差別をなくす教育で、人権教育は人を大切にする教育であり、流れは同和教育から人権教育という名前に変わってきた。差別をなくして困っている人をなくそうというのと、高齢者や障がい者など、色々な人たちを大切にして同和問題をクリアーしていこうというもので、国も同和教育から人権教育に切り替わってきた。上田市では、意識としては人権教育に移っている中で、同和教育を忘れないように同和の文字をあえて残してきた。そういう意識を持っていれば、表に出さなくても、テーマにすえなくてもいいのではないか。これに対しては、社会教育指導員の研修が必要ではないかと思う。上田市で意識統一をしていかないといけない。ただ、難しいのは、真田、丸子、武石地域でそれぞれ土台が違うことだ。また、解放子ども会があるのは、旧上田市だけだ。同和問題は手放しでないとはいえない。あるときふと自分に降りかかってきたときにショックが激しいので、それに抵抗できる免疫をつけておかなければならない。だとすれば、どうやって何をつけておかなければならないのか。そういう子ども会のあり方も考えておかなければならない。この課題は担当の方で深めてもらうということをお願いしたい。

(エ) 青少年教育

(委員) 青少年育成懇談会の現状はいかがか。

(事務局) 3年位前までは、前期でさつまいもを育てて、後期で焼き芋大会というような流れで年2回開催していた分館もあった。現在は、そのような行事的なことは、育成会の方でやっていただき、年1回子どものことについて話し合う懇談会にしている。なぜ焼き芋が懇談会としていけないのか、地域から質問も受けているが、このような形も徐々に理解されてきたと思う。下紺屋町では、防災についての懇談会の際、日頃見守り隊で子どもたちの安全を守ってもらっている地域の人からお話をいただき、大変良かった。今後、青少年という角度付けをしっかりとすること、地域の人に自治会懇談会に登場してもらうことを拡大していきたい。

(委員) 来月12月、青少年育成推進指導員制度等について市長に答申する。地域におけるPTAなど、コーディネートする一番の元締めが推進指導員である。ネットワークなどを利用して子どもの活動を地域の中で起こしていく大きな役割がある。ところが、現在は1回講座をやるだけになっている。子どもたちが自分たちで考えて遊びを作って地域の人と絡む。地域の人と顔を合わせてコミュニケーションすることで絆が生まれ、地域の活性化につながる。というひとつの大きな渦を作っていく。そういくことが重要ではないか。西部公民館は色々なことをやってくれているが、公民館ベースではやりづらい面がある。小学校が隣にあるなど、条件はいい。上野が丘では市民の森を使ったり、夏休みに大きなイベントをやったり、子どもを巻き込む動きをやっている。

(オ) その他事業

(委員) 次に地域独自の課題、テーマを学習する講座について、御意見はいかが。

(事務局) 毎回好評でいいと思う。戦争と教育はとてもいい内容であったが、受講生が少ないのは残念だった。今後も小林先生には続けてほしい。

(委員) 川西が水辺マップを作ったが、西部でも里山マップのようなものはできないか。今塩尻ではやっているから、秋和の里山辺りで何かできないか。

(事務局) 講座を受講して何か行動を起こして欲しいという思いがある。マップに限らず何かやってもらいたいと思っている。

(委員) マップがあれば、どこで何をやっているのかが分かるので、そこへ参加できる。

(委員) 地域で育てる子どもたちの関連で三中との絡みはいかがか。

(事務局) 花と庭づくり教室は、西部・塩尻地域以外の人も入り、現在15名のボランティアがいる。今後ボランティアとしての活動を目指すため、正副会長を決めて活動している。活動は9回、講座として5回、自主的な活動は4回である。将来的には自立の形を目指して楽しく活動しており、委員会の時間に受講生のボランティアさんとの交流を入れている。花壇のスペースも昇降口の付近に1箇所増やし、2箇所担当している。塩田への研修視察も実施し、塩田中ボランティアの皆さんとの交流会も行った。また、三中の保護者、学校評議員の方の参加もあり、層が厚くなってきた。

(委員) 西小とも学校とのパイプがだんだんとできはじめている。もう少し様子を見守りたい。がんばっていただきたい。

(委員) 情報発信の部分でホームページだが、アクセス難しいと思うがいかがか。教育委員会のアクセスはするが、公民館へのアクセスはどうなのか。地域外からのアクセスの状況はどうなっているのか。

(事務局) 地域外からのアクセス件数は分からない。

(委員) 見たがっているものは何か。何を知りたがっているのか。

(事務局) 公民館側の考えだけでなく、市民の皆さんが何を知りたいのか、今後ホームページを作る上でアンケートを取ることも検討していきたい。

(2) 公民館を巡る諸課題について

(事務局) 各公民館の分館活動交付金と役員報酬について、合併後統一が難しい状況となっている。

(委 員) それぞれの地域で独自で活動している状況であるので、統一は難しいのではないかと。組織や団体も違うので、地域間のアンバランスをどう考えていくのか。やる気のあるところには厚くしていく考えでお願いしたい。

(事務局) 来年もペタンクを通しての飯田との交流を進めていきたい。また、今後はペタンク以外の交流も考えていきたい。

(委 員) 「これは西部」というものを出してほしい。そうでなければホームページへのアクセスしてもらえない。ペタンクで検索したら公民館が出るような工夫もお願いしたいところだ。

4 閉 会 (中山次長)